

インフラ整備に伴う新技術 支柱路面境界部検査システム「キズミー1」 NETIS:KT-130057-VE(令和3年準推奨技術)

インフラは高度経済成長期の1960～1970年代に集中的に整備され、今後は老朽化が一斉に進む。適切な維持管理には、**点検・診断・評価・劣化予測**のメンテナンスサイクルが欠かせない。特にその起点となる**点検**は重要視されるが、地方自治体の管理の現場では限られた人員や費用で対応できるのかという課題が突きつけられている。

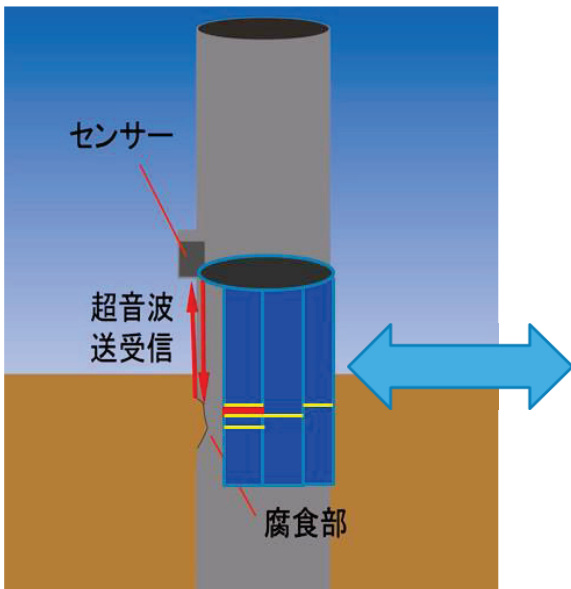
そこで点検を効率化する技術、**支柱路面境界部検査システム キズミー1**の登場となる。



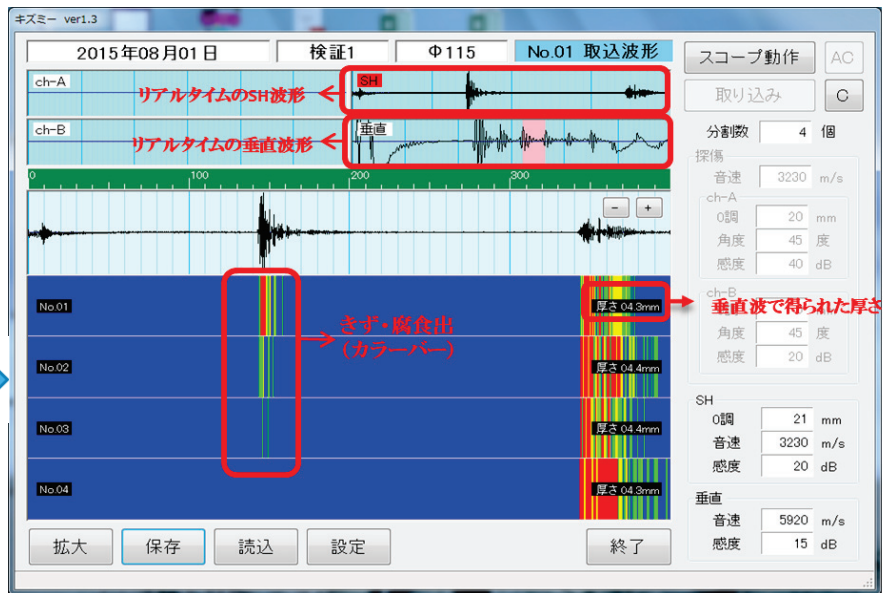
公園の屋根付きベンチ倒壊



信号柱の倒壊



キズミーの調査原理



キズミーの画面

- 掘削せずに鋼製支柱埋設部の腐食調査が可能
- 約2名の調査員で行うため道路規制等が削減可能
- 教育を受けることで現場技術者が調査可能
- 簡易型超音波調査装置なので持ち運びが容易

